

議事概要		司会進行		記録者	
		牛久市経営企画部 次長兼政策企画課長 柳田		筑波総研株式会社 コンサルティング部 主任研究員 山川	
1. 会議名	令和2年度第2回 牛久市総合計画審議会				
2. 開催日時	令和2年6月1日(月) 13時30分～	開催場所		牛久市保健センター2階 研修室	
3. 委員 (敬称略)	出席者	氏名		所属・職名	
	◎会長 ○副会長	岡本 直久◎ 芦田 亜里香○ 山本 幸子 堀 賢介 秋山 昌範 野口 憲 徳生 明正 山越 康義 諏訪 浩子 谷本 敦史 御代川 栄子 種子田 孝子 滝本 昌司	筑波大学教授 牛久市教育委員 筑波大学准教授 弁護士、牛久市行政不服審査会会長 環境カウンセラー、県まちづくりアドバイザー 牛久市区長会長 牛久市商工会長 牛久市農業委員会会長 きらきらスペース(子ども食堂)代表 牛久市民生委員児童委員連絡協議会長 牛久市障がい者連合会会長 牛久市文化協会会長 副市長		
4. 議題及び会議 の公開又は非 公開の別	公開		傍聴人の数	1人	
5. 事務局	牛久市経営企画部政策企画課／筑波総研株式会社				
6. 次第	1. 開会 2. 議事 (1) 書面協議に係る意見及びその対応について (2) 基本構想について 3. 閉会				
7. 議事内容	別紙参照				
8. 連絡事項等	次回開催予定日：2020年6月29日(月)午前10:00 ※詳細は追って通知				

## 議事内容

## 議事(1) 書面協議に係る意見及びその対応について

発言者	内容
事務局	資料に基づき説明
会長	事務局から5点協議したい項目の提案があり、まずそれについて意見を伺いたい。 健康・医療・福祉の取組の方向性の上部、「それぞれの役割をもって「無理なく、ほどよく」助け合える地域づくり」という表現を用いているが、この表現についてどう思うか。
委員	違和感ではないが、「ほどよく助け合う」というのは、今まで厚労省や福祉などで、自助や共助、地域社会と一緒になど、徐々に「みんなでやって行こう」というスタンスに変わっており、この言葉はそれに沿っている気はするが、市の立場としてこれで良いのか。福祉や医療などの裏付けがあって使うなら良いと思うが、どう考えているか。
委員	問題は2つある。 負担が集中するため、まんべんなくみなさんでできる範囲で負担を分け合い、持続可能な取り組みができるかということ。 また、それを表す表現として「無理なく、ほどよく助け合う」それを端的に示しているのかということ。後者に関しては、これだけ「無理なく、ほどよく」と言った時に、そこにぱっと結びつきづらいという感覚がある。 これをフレーズとして使うのであれば、説明がもう少しないと誤解を招く可能性があると感じる。
事務局	現在どういった分野でも後継者問題があり、そういった部分でこのフレーズを選んだ。市で次の施策を進めていく段階で、色々お願いするしかないという立場のため、目指すべき方向性としては、みんなで色々分担してやっていただくという意味で、市の方では採用させていただいた。確かに説明が必要と思う。
会長	障がいを持つ方が地域社会の中で健常者と同じように生活していけるように強く発信する必要性。これに対する取り組みの方向性。 障がい者の社会参加や個性の発揮などについて、これよりもっと強く発信してはどうかという意見があった。個人的には、このようなことを書く必要のない世の中が望ましいが、書かなければいけない世の中である。
委員	取り組みの方向性としては、現状と課題の記載と対峙されるべきであって、現状の問題があるからこそ取り組みの方向性が指し示めされる。現状の課題で障がい者への偏見や差別が言及されていない。 強調するのであれば、現状と課題で一言言及を入れて、取組の方向性を考えるべき。
会長	障がいに関する法律や条約ができて環境を整える方向性ではあるが、まだ十分でないというのが指摘されている部分。 それを現状と課題の中で指摘しておく必要はあると考える。
会長	教育分野で、もっと人材を活かす方向性を表現することについて
委員	牛久市の教育の中心はというところを書かせていただいているが、これが所謂コミュ

	ニティスクールである。コミュニティスクールというのは、地域や保護者、皆で子どもたちを育てていこうこれからの学校の形。地域にある人材をどんどん取り入れ、教師だけが先生ではなく、地域にはたくさんの先生がいるということ表現してほしい。コミュニティスクールの在り方をもっとわかりやすく表現してほしい。
委員	学校の現場でも総合学習はカリキュラムの関係上難しくなっていたりするが、牛久はオリジナルな市民参加型の大きな文化芸術祭などもやっていて、そういったところも意識して人材という言葉が書かれていると思う。 それを活かしていく仕組みづくりがもう少しあれば良いと思う。
会長	「都市機能」と「生活・環境」の分野について、生活の部分を都市機能に入れて、環境を独立させたが、どう思うか。元に戻した方が良いという意見があれば教えていただきたい。
委員	中心市街地の場合、あまり生活のイメージがなく、生活する人達が必要な機能が集まっていると理解しており、6番目の「生活・環境」に暮らしの環境が入ってきていると理解していたが、1番市民の方々に近いところで、生活が落ちると暮らしの部分がどこに入っているのかというのがわかりにくくなっていると感じる。 前回の総合計画では「都市機能」という言葉もなく、「生活基盤」という言葉で使われていたと思うが、どちらかという「生活基盤」の方がわかりやすいと思う。ただし、最近都市機能という言葉がよく使われる。案はないが「生活」という言葉が消えてしまっていて本当に良いのだろうかと思う。
会長	総合計画は全てが生活を支えているもの。「都市機能」と言うと駅周辺という誤解を生む可能性はある。人口が集まっているところ、そうでないところで、「都市機能」を人が集まっているところと思われるとそれは違う。「生活基盤」でじっくりいかもかもしれない。
委員	環境という部分で、自然環境の保全と生活衛生の環境という「環境」がいつも混ざってしまっているため、そこは分けた方が良いと考えるが、分けて「生活環境」を、「社会」や「都市機能」という言い方をすると、市民目線からは少しよそよそしい感じを受ける。指摘の通り「暮らし」や「生活」というキーワードが入ってくることによって、なんとなく自分になじむ言葉になっていく気がする。その辺の工夫があると良いのではないかと考える。
会長	行政運営の将来像が「行政が市民に信頼されているまち」としていることについて。
委員	市民から信頼されるのは大事である一方で、適切な行政運営が行われているということが何より重要であると思う。本来であれば、「適切な行政運営が行われているまち」だが、これではキャッチフレーズとしては、堅苦しくつまらないと思う。 「信頼」という言葉だと、必ずしも行政運営のやり方ではなく、例えば情報公開や市民参加などで培われてくる部分もあるため、適切な行政運営の結果、信頼が醸成されるということならわかるが、そこがしっかりこない。 良い響きなので良いなという思いもあるが、みなさんどうお考えか伺いたい。
委員	「信頼」という言葉は理想的な言葉なので、「信頼」という言葉を使うことに異論はな

	<p>いが、現実的に行政と一般の市民が信頼しあうという仲になるまでには短い期間では難しい。1年経ってもなかなか難しい中で、「信頼」という言葉は良いと思うが、総合計画という立派なものできたとしても、深くかみ砕いて、その分野、分野で行政と深く結びついたり、他の組織と協力するためには、その人その人を知っていけないと社会がうまく機能していかないと思う。</p> <p>信頼を実現するには市民協働していかなければならないと考える。</p>
会長	<p>「信頼」までのプロセスが大事で、市民協働していかなければならない。ご指摘はポジティブに受け止める。キーワードとしてコンプライアンスとして入れておいても良いのではないかと考えている。</p>
委員	<p>良いフレーズだなと思うが、私の感覚では、おっしゃるように行政は批判されることが多い。行政は批判されても正しい事をやるしかない。そういう上では、「信頼」よりも「適正な運営」が重要と思う。「信頼」というのが難しく捉えにくい概念だが、みなさんのご指摘もわかるため、このままでも良いのかもしれない。</p>
会長	<p>その他何かあるか。</p>
委員	<p>その他のご意見等のところで、横の連携をしっかりとシステムを作っていないといけないと思う。役所の中の縦割りの強さというものを日頃から感じている。</p> <p>横の連携をしっかりとシステムというのが、行政の取り組みの中であまり見えてこない。強いて言えば、「新たな発想で挑戦できる職員の育成」ここに期待をかけているのかなと思った。多様なニーズに対応していく上で絶対的に不可欠だと思う。それを現場の方々にとしっかりと意識をしていただいて、それが各所で目に見えてくるくらいになっていくと良いのではと思う。</p>

議事 (2) 基本構想について

発言者	内容
事務局	資料に基づき説明
会長	<p>序論の7章、時代の潮流、総合計画との関係を示すことが重要。</p> <p>コロナの問題も書かれているが、「新しい生活様式」というキーワードが入っていない。ここだけ浮いている感じがする。</p>
委員	<p>基本目標「市民の郷土愛の醸成による世代が循環するまちの形成」という言葉だが、「市民の郷土愛の醸成」については誰がやるのか。</p> <p>それと、私の認識では都市計画マスタープランと同時進行で相互に整合性を図りながら策定を進めるものと聞いていたが、確認したい。</p>
会長	<p>郷土愛という言葉より、牛久に対する愛着を持てるということだと思う。</p>
委員	<p>醸成というのはどういう風に捉えれば良いのか検索した結果、「その状態に少しずつなっていく」と記載があった。それであれば、市民が牛久を少しずつ好きになっていく形を行政も含めてみんなで作っていきましょうという意味があって、その結果、世代が循環してこのまちが作られていくというように最終的にはなると思ったが、確かに「郷土愛の醸成」となると、捉え方が難しいと思う。</p>

委員	<p>「醸成」という言葉が話題になっているが、「継承」なんだと思う。人材を活かしていく仕組みづくりというのがこれに関係してくる。誰がやるのかという意見がその通りだと思った。総合計画が良いのか、それより下につくものが良いのかは別として、考えていかないとこのままになってしまうと思う。言葉を練り直すことで考えても良いが、どこかで仕組みが必要になってくるというのが、また出てくると思う。</p>
委員	<p>政策形成の視点の2番目、「市民一人一人が自分らしく生きる」は市民が主語になっている。「行政が市民一人一人の自分らしさを尊重する」など、文字数や見た目の問題があるかもしれないが、政策形成という時に、主語は行政ではないかという気がした。</p> <p>ここは、可能な限り、行政がこうしますと統一した方が良いと思う。</p>
事務局	<p>第3章の土地利用の基本的な考え方について訂正。都市計画マスタープランの作成と相互に整合性を図りながら策定を進めていく。</p> <p>[今後のスケジュール]</p> <p>次回の審議会は6月29日の開催を予定している。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症防止の観点から密な状態になるワークショップは実施せず、その代替りとして、基本計画の方に反映できる意見をワークショップ参加予定の方々にアンケート等を通じて伺いたいと考えている。</p> <p>今日の議事に関する追加の意見があれば、直接事務局まで早めに連絡がほしい。</p>

以上